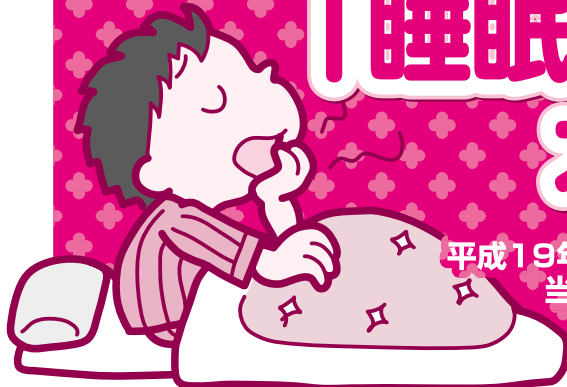


「睡眠医療センター」をオープンしました

平成19年5月18日からオープンした「睡眠医療センター」について
当院の神経内科部長で睡眠医療センター長の若井正一先生に
お話をうかがいました。



1 「睡眠医療」とは

我々の健康にとって、睡眠の果たす役割が大きいことは論をまちません。にもかかわらず、これまでの医学では睡眠時の病態に大きな関心が寄せられてきませんでした。ところが実際には、睡眠中に発病したり、発病の準備が進んでいたたりする場合が多いのです。病気は夜作られると言っても決して過言ではありません。

たとえば「睡眠時無呼吸症候群」という病態をご存じでしょうか。睡眠中に呼吸が止まったり弱まったりするために睡眠が妨げられ、昼間の眠気、頭痛、疲労を来たして、生活の質を大きく損ねる疾病のことです。これは、近年話題のメタボリックシンドロームを高率に合併し、心筋梗塞、脳卒中などの生活習慣病の大きな要因となります。そのため、病気の予防を重視する時代の流れにあつて、大いに社会的関心が高まっています。

睡眠の障害を招く病気はそれだけではありません。足を動かさずにはいられなくて眠れない場合、「むずむず脚症候群」の可能性があります。突然に眠気が襲ってくる場合、「ナルコレプシー」かもしれません。睡眠中に突然に暴力的な行動を起こす場合、「レム睡眠行動障害」が考えられます。睡眠中に突然痙攣発作を起す

す場合、「睡眠関連てんかん」の疑いがあります。

このように、睡眠の障害を来す病気は様々です。原因となつていてる疾患を診断し、その重症度を評価し、それに応じて適切な治療を行うことが睡眠医療の役割です。

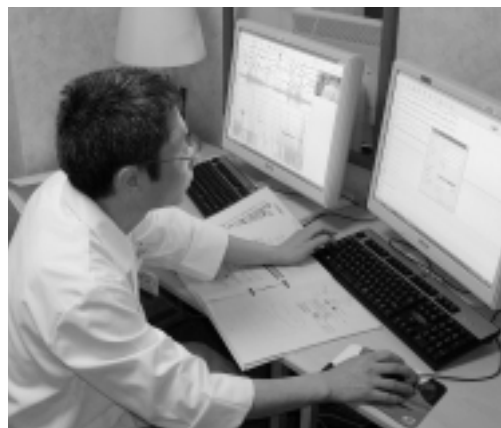
2 当院の「睡眠医療センター」の特色

睡眠医療は一つの診療科の枠組みに納まるものではありません。というより、睡眠医療と無縁な診療科はないと言ふべきでしょう。当センターでは、総合病院の一部門である強みを生かして、関連する診療科との密接な連携により、単に睡眠障害を治療するだけではなくて、その合併症にも目配りして、その予防や治療にも力を注ぎます。



3 検査内容

一泊二日の検査入院で、終夜睡眠ポリグラフィー検査を施行します。



4 治療方法

原因疾患により治療法は異なります。例えば、睡眠時無呼吸症候群の場合、経鼻的持続陽圧呼吸療法（鼻CPAP療法）、耳鼻科的手術療法、歯科器具（マウスピース）などがあり、重症度や診察所見を考慮して、適切な治療法を選択することになります。

